

# 七十七ビジネス大賞受賞

第10回（平成19年度）

## 企業 インタビュー

Interview

## 弘進ゴム株式会社

代表取締役 西井 英正 氏



### 会社概要

住所：仙台市若林区河原町二丁目1-11

設立：昭和18年（創業：昭和10年）

資本金：100百万円

事業内容：ゴム・ビニル製品製造並びに販売

電話：022 (214) 3011

URL：<http://www.kohshin-grp.co.jp/>

創業73年のゴム・ビニル製品製造の老舗トップメーカーとして、産業用・土木建設用・農業用・食品用・医療用・健康関連など様々な分野へ製品を提供

今回は「七十七ビジネス大賞」受賞企業の中から、創業以来ゴム・ビニル製品製造を営み、現在はシューズウエア部門と化工品部門を2つの柱とし、専門業種向け作業用長靴の国内トップシェアを誇る弘進ゴム株式会社の西井社長を訪ね、今日に至るまでの経緯や事業戦略などについてお伺いしました。

### ゴム製品のみでのスタート

——七十七ビジネス大賞を受賞されたご感想をお願いします。

宮城県の独立企業として日本全国だけでなく海外へと事業展開している点と、ゴム・ビニル製品製造会社としてフットウエアやレインウエア、介護用品、自動車関連品など幅広く製品展開している点が評価されたのだと大変嬉しく思っています。

——創業当初の経緯をお聞かせください。

創業者である私の祖父は、富山県高岡市出身でお寺の息子でした。昭和初期頃、親戚が北海道の小樽でゴム長靴製造を中心とする三馬護謨工業合資会社を創業し祖父も手伝いのため小樽へ渡りました。技術者として神戸で製造技術を習得後、昭和7年に仙台工場長に就任しました。

その後独立し昭和10年6月、仙台市古城に弘進護謨工業株式会社を創業しました。創業当初はゴム製品のみを製造していました。戦中の昭和13年7月、ゴム使用制限令により三馬護謨工業仙台工場と共同作業を行うようになり、ゴム長靴中心のものづくりへととなりました。そして、昭和30年代以降からビニル製品製造を開始し、昭和33年に弘進ゴム株式



巨理事業所

会社へと社名を変更しました。

私は大学院卒業後、商社へ就職し3年間財務、経理、為替についての業務を行っていました。その後、当社へ入社し最初は大阪支店で倉庫内作業を約2年間行い、平成8年に仙台へ赴任し本格的に経営面の業務に携わりました。

——事業内容について教えてください。

フット・レインウエア部門と、工業用品関連・産業資材関連・健康関連からなる化工品部門の2つの柱を中心とした製品を、企画開発から製造、物流、販売まで長年培われた独自の生産システムを通してトータル対応しています。事業展開の割合は、フット・レインウエア部門が53%、化工品部門が47%と近年ではほぼ均衡の割合になっています。

支店・営業所は仙台、東京、名古屋、大阪、福岡、浜松、札幌の7ヶ所で、国内工場は巨理工場(宮城県巨理郡)と北陸工場(富山県小矢部市)の2ヶ所を拠点としています。また、海外工場として平成9年9月に中国・大連市金州区に工場が完成し稼働しました。

——経営理念についてお聞かせください。

長年、当社には経営理念も社是もありませんでした。しかし、時代の流れと共に会社のあり方や方向性の明確化が必要となり「イマジン&クリエイト(想像して創造する)」をキャッチコピーとした経営理念を設けました。

当社の市場は業種業態が様々で消費財から生産財まで幅広く取扱っています。また、素材加工業の特徴を活かし、モノとしての必要性や付加価値など新しい価値の創造を目指して製品の開発、製造を行っています。

また当社製品のユーザーであるお客様の満足度アップや、従業員の社会的・経済的充実の実現など、お客様と従業員の豊かな暮らしの実現に努めています。

## 国内トップシェアの業務用長靴

——フットウエア事業について教えてください。

主力製品として創業当初より取組んでいるラバーブーツとPVCブーツとに大きく分けられ、水産、農業、食品、土木建設などの業務用から、レジャーやスポーツ用の一般用まで幅広く展開しています。

商品群としては、カラーバリエーション豊富なカラーブーツ、防水性・快適性に優れたスタンダードブーツ、地域毎の特性や要望に合った農業用長靴、抗菌・防滑・耐油性に優れた衛生長靴など多種に亘り、また靴底は使用環境や用途に合わせて60種類あります。長年培ってきた当社独自の技術により、用途や使用環境に対応した機能性を有する製品作りを行っています。

——ゴム長靴の軽量化を実現されたそうですね。

ゴム製品製造で重要となるのがゴムの配合です。従来品は、配合によるゴムの比重が1以上でしたが、軽量化の「ライトシリーズ」は比重1未満を実現しました。

試作品の売れ行きは足踏み状態で



フットウエア

したが、中国工場での生産によりコストダウンを図ったことで売れ行きが伸び、その後も改良を重ねました。約5年かけて開発したライトシリーズは、現在では年間のフットウエア売上300万足のうち約40万足を売上げる大ヒット商品となっています。

## 快適さを追求した幅広い製品展開

### ——レインウエア事業について教えてください。

農林漁業、土木建築などの作業用から通勤・通学、レジャーなど多彩な用途に合わせてカラー、デザインも豊富に取り揃えています。ゴム・ビニル素材のウエアは水産関連で多く用いられ、ナイロン樹脂の裏に各種原材料をラミネートした素材を縫製加工したウエアは一般向けでホームセンターやワークショップ等に出荷しています。

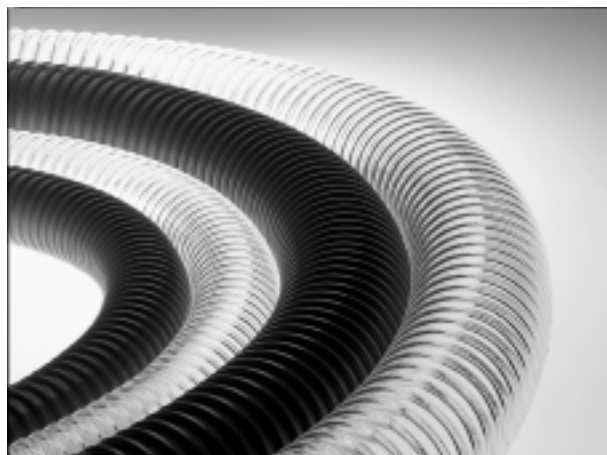
またその他にも、抗菌性、軽さ、耐油性など使用用途に合わせたエプロンや、丈や厚さのバリエーションが豊富なグローブも製造しています。現在成熟市場であるレインウエア部門では、より機能性を重視したバリエーション豊富な製品展開を目指しています。

### ——化工品事業について教えてください。

工業用品関連には、昭和28年の北陸工場設置と



レインウエア



サクシオンホース

同時に製造を開始したホースと昭和51年にヨーロッパの企業と技術提携したコーティングがあります。ホースには、ゴムホース・樹脂ホース・サクシオンホースがあり柔軟性や耐薬品性に優れているため、車のエンジンルーム、医療機器の血液搬送などに利用されています。コーティングは、特にPVCゾル槽へ浸漬し金属表面へ皮膜を形成するKSコーティング設備が国内最大の規模を誇ります。特長は、継ぎ目、ピンホール、エアーの抱き込みが無く耐海水性や耐薬品性に優れており、海水の取水管や銅の電解槽に利用されています。

産業資材関連として防水・遮水技術が生かされたシートには、シート単体、フィルム単体、フィルムを他の素材に積層したラミネート製品や、これらの製品を裁断、溶着、組立てをした加工品があります。輸送用袋、プール、水槽用ライニングシートやビル屋上のルーフィングシートなどに利用されています。

### ——健康関連事業について教えてください。

高齢化社会に向けて介護ではなく健康にこだわり、15年程前から「ホームケアに求められている機能と優しさをかたちに」をテーマとした製品開発をしています。健康関連の主力商品である「オーバルリンク」は、楕円形の連続結合意匠が驚異的なすべり防止効果を発揮する滑り止めマットです。ゴム配合が比重2で水に沈むため浴槽でも使用でき、当

社の単品売上第1位の製品です。

またその他にも、入浴介助がひとりでもできるエア式の「コーシン快護おふろ」、疲労回復のための「酸素シャワーカプセル」などがあります。健康関連事業をスタートさせた当初は販売のルート開拓が一番の課題でしたが、「オーバルリンク」で確立した販売ルートを基に、優しさと思いやりのある新製品の開発を進めていきたいと思えます。

## グローバルなゴム製造

——製品の企画開発について教えてください。

フット・レインウエア部門と化工品部門など部門ごとに、合計30名の商品開発、素材開発、デザイナー担当で企画開発しています。製品化までの期間は最短で半年、長いと5年を要します。

シューズウエア部門では、お客様の顕在的・潜在的ニーズを満たす製品の企画開発が大切です。お客様が求める機能性の追求を重視した上で如何にデザインを融合させるかをポイントとしています。今後は長靴の蒸れと滑りの解消を課題とし作業上での安全を提供できる製品の企画開発に取り組めます。

また、部品である化工品はシューズ等と異なりお客様個々の使用用途やニーズに合った専用品であるため、各々のニーズを十分に把握することが大切です。多品種少量生産という当社の特長を活かし他メーカーができない隙間を狙った製品の企画開発を目指しています。

——各工場の製造作業について教えてください。

昭和28年5月に富山県小矢部市に設置した北陸工場では、ゴムホースなどの工業用品を主体として厨房用シューズなどの業務用特殊布靴も生産しています。またその他にも、自動車・建機・農機・船舶など他メーカーのOEM商品を多数生産しています。

昭和41年11月に亙理郡亙理町に設置した亙理工場では、ポリ塩化ビニル樹脂を中心としたプラスチック製品を生産しています。主な生産品目には食品・水産加工用衛生長靴、サクシオンホース、自動



作業風景

販売機などに使用される樹脂ホース、防水シートやフィルムなどがあります。

原材料となるゴム・ビニルは国内の資材商社を通じて調達しています。特にゴムは専門の練り屋に依頼し、当社独自の配合で練られたゴムを使用します。

平成9年9月に中国・大連市金州区に設置した中国工場では、360名の従業員のうち4名の日本人スタッフが常駐しライトシリーズを中心にゴム長靴を生産しています。今後、中国工場で生産した長靴は日本だけでなく中国国内やヨーロッパでの販売も視野に入れ活動していきたいと考えています。

## 長年培った技術による差別化

——御社独自の製造・配合技術の特長について教えてください。

製造技術については、一般的に樹脂の種類によって適合性が異なるため使用する機械も異なるのですが、当社は塩化ビニルも樹脂ウレタンもEVAも全て同じ機械を使用することができます。他社にはない独自の器用な製造技術です。

また、独自のゴム配合技術を駆使したゴム長靴は耐久性に優れています。特にライトシリーズは、軽いだけでなく保温性と強度が増し割れにくいのも特



長です。長年培ってきたゴム配合技術は圧倒的に高い評価を得ています。

## ——品質管理システムについてお聞かせください。

ものづくりとは、工程で作りこんで不具合が発生しないというのが原点であり品質管理もその中に盛り込むというのが理想です。検査をすることで品質管理をしようとする利益にはつながりません。当社ではISO 9001を取得し品質管理システムを導入していますが、工程で作りこんで検査工程のロス無くすということが今後の大きな課題です。

## 地域貢献と最先端技術の提供

### ——ライセンス商品を発売されましたね。

地元企業として当社が得意とする分野で何か地域貢献の一助となれないかと考え、平成19年10月にプロ野球チームの東北楽天ゴールデンイーグルスのライセンス商品としてゴム長靴とレインウエアを発売しました。長靴は紳士・婦人・子供用を取り揃え、レインウエアはコートとポンチョがあります。その他にも、米ゼネラル・モーターズの「ハンマー」のライセンス商品としてゴム長靴を発売しました。

ライセンス商品の発売により地域の企業の発展へ貢献すると共に、一般履きとしての長靴の需要の増加につながればと考えています。

### ——新製品への取組みについて教えてください。

現在新製品として、太陽電池パネルのシリコンとガラスの間に挟み込み、水や空気を遮断する封止シートを生産しています。また、断熱性と防犯性を高める合わせガラスの中間膜としてのシートも生産を開始しました。これら最先端技術は海外での需要が高く注目されているため、早急な生産ライン増設が必要となっています。

シューズウエアは今後さらなる改良を重ね、新しい機能性と耐久性、基本品質を高めていきたいとします。また、最近流行となっている婦人用長靴への取組みを本格化し、新しいゴム長靴の提供に努めていきたいと考えています。

## あえてリスクを取る勇気

——最後にこれから起業する方へアドバイスをお願いします。

起業というのは、利益目的のみでは決して成り立ちません。自分がこれからすることの意味や社会的意義、自分の仕事がどのくらい価値のあるものなのかを考えてから起業すべきであると考えます。例えば、単に夢の延長上で事業を起こしたり、自分の存在を社会に認めてもらうことを目的とする起業は良い動機だとは思いません。

そして起業後は、何よりも良い人材、良い商品や設備を揃えることと運用資金を確保することが大切です。また、あえてリスクを取るという強い気持ちが事業にとっては必要だと思います。確固とした自分の事業プランを設計し、何事にも臆することのない強い気持ちを持って頑張ってください。



巨理事業所にて

長時間にわたりありがとうございました。御社の今後のますますの発展をお祈り申し上げます。

(20. 5. 1取材)